

金融広報アドバイザーとは、金融広報委員会からの委嘱を受け、各地において暮らしに身近な金融経済等に関する勉強会の講師を務めたり、生活設計の指導や金融・金銭教育などを行う金融広報活動の第一線指導者です。

金融広報 アドバイザーの 紹介

「知ってるつもり」をなくし 正しい人生設計の お手伝いをしていきたい

「ファイナンシャル・プランナーは家計のホームドクター」と話す和歌山県金融広報アドバイザーの垣由起さん。一人でも多くの人に「お金について知ってもらいたい」と、聞き手の「心を掴む」講座を大切にしています。

* * * * *

和歌山県金融広報委員会は、子育て世代の主婦層を対象に、託児サービス付きの連続講座を開講しています。垣さんはそのなかで主に「教育資金」と「子育てを離れ、働き出す前」に知っておかなければいけない知識の講義を行っています。

「最近のお母さんは、子どもたちの金銭教育に一生懸命で、よくお子さんの相談をされます。でも、日本は学校でお金の勉強をする機会が少ないため、お母さん世代もお金については十分な知識がありません。なのに『なぜか知っているつもりになっている』



大手証券会社で活躍し、顧客の資産管理などのサービスのためにファイナンシャル・プランナー（FP）の資格を取得。独立開業後はNPO法人日本ファイナンシャル・プランナー協会和歌山副支部長を務める傍ら、金融広報アドバイザーに。FM和歌山の開局時より、毎週金曜日午後3時から「FPのマナータイムズ」を担当。ほかにも積極的に「お金の問題」の啓発活動に取り組んでいます。

ことが、私は「一番の問題だと思うのです」と垣さんは警鐘を鳴らします。

垣さんがこうした危機感を持っている背景には、本業のFP相談に訪れる人の多くが、「投資に失敗してしまった」「退職後、将来の生活が心配になった」など、少し「遅すぎる相談」が多いからだと言います。

「FPは医者や

弁護士のように何か起こった後の面倒を見るのではなく、安心な生活設計を描き、株や投資に失敗しないよう、未来についてアドバイスをすることが仕事です。その一歩が『お金について知ること』なのです。金融広報アドバイザーと

して活動するときも、この点を重視しています。」

垣さんが講座でよく利用するのが「ライフイベント表」です。将来にわたり自分や家族が何歳のときに、どのようなライフイベント（子どもの受験・進学・結婚・出産、マイホーム・マイカーの購入など）が起こりそう

か、年表にしていくものです。

「年表を見ると、『ここでこういうイベントがあるから積み立てをしよう。ここでイベントが重なるのは困るから計画を変更しよう』など、人生設計を立てることができず」と垣さん。これは子どもたちにも応用でき、「将来の夢」を実現するために、「今すること」を明確にした人生設計表を作ることができるのだと言います。

講座の後には、「先生、もっと私の場合、についてアドバイスしてください」という受講者が行列を作ったと言います。「講義で話すことは一般論ですから、もっと知りたい」と私の場合はどうなの？と関心を持ってもらえたときは嬉しかったです。こうした講義で一人でも多くの人が当事者意識を高め、将来お金で困る人が減ってほしいと思います」と垣さんは話しています。

和歌山県金融広報委員会
金融広報アドバイザー
垣由起